

VOL.9

ガンゼラフアース倶楽部会報 2015



LOVEEARTH

明日をもっと、**こ**こちよく

GUNZE

わたしたち『グンゼラブアース倶楽部』は、社会貢献活動を行っている団体への支援などを通して、お互いが支え合い、より良い明日を実現する仲間になりたいと、2006年4月、グンゼ株式会社の創業110周年を記念し設立され、みなさまのご支援をいただきながら、今年で10年目を迎えることとなりました。東日本大震災から4年が経ちましたが、復興は道半ばであり、まだこれからも支援が必要です。

また去年は、集中豪雨や台風による被害、御嶽山の噴火による災害が続き、今年に入ってからにはネパールにおいて大きな地震災害も発生しました。グンゼラブアース倶楽部が支援する団体の多くが、このような災害の支援に尽力しておられます。これからもみなさまからのあたたかいご支援をお願いいたします。

2015年6月

代表幹事 **服部 和徳**



イラスト寄稿 角村 潤子さん

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. グンゼラブアース倶楽部について | 11. 支援先報告 (WWFジャパン) |
| 2. 支援先報告 (国境なき医師団日本) | 12. 支援先報告 (森は海の恋人) |
| 3. 支援先報告 (国境なき子どもたち) | 13. 支援先報告 (エコネットワーク津山) |
| 4. 支援先報告 (エイズ孤児支援 NGO・PLAS) | 14. 支援先報告 (カタリバ) |
| 5. 支援先報告 (関西盲導犬協会) | 15. 支援先報告 (CIVIC FORCE) |
| 6. 支援先報告 (セーフ・ザ・チルドレン・ジャパン) | 16. 支援先報告 (JEN) |
| 7. 支援先報告 (日本クリニックラウン協会) | 17. 支援先報告 (シャプラニール) |
| 8. 支援先報告 (AMDA) | 18~21. その他の活動 |
| 9. 支援先報告 (ロシナンテス) | 22~23. その他の社会貢献活動 |
| 10. 支援先報告 (ACE) | 24. 決算・会計監査 報告 |



国境なき医師団(MSF)は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。命の危機に瀕した人びとへの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとする海外派遣スタッフが、世界70カ国で援助活動を行なっています。

エボラ出血熱——2014年は誰もが一度はこの病名を耳にしたのではないのでしょうか。感染者（疑い含む）は2万4000人を超え、亡くなった人の数は1万人を超えました。国境なき医師団（MSF）は、この悲劇を食い止めるため、国際社会の支援参加が不可欠であることを訴え、今も懸命の治療を続けています。



救急車から患者を運ぶリベリアの治療センタースタッフ



シエラレオネで治療施設に入るスタッフ

(C) 国境なき医師団日本

【支援金の使途】

頂戴しました寄付金は弊団体の医療支援活動全般に有効に使わせて頂きます。

【会員へのメッセージ】

真に必要な場所に医療・人道援助を届けるための支援をありがとうございます。

ストリートチルドレンや人身売買の被害に遭った子ども、大規模な自然災害で被災した子どもなど恵まれない環境下にある青少年に、安定した衣食住と適切な教育や職業訓練の場を提供しています。一人でも多く教育を受け自立できるよう、活動を行っています。国内では、東日本大震災発生以降は、岩手県における教育支援を開始して5年目を迎えました。

2013年11月8日にフィリピンを襲った巨大台風の発生から1年以上が経過。2014年は、フィリピンのレイテ島、サマル島内の3カ所でチルドレンセンターを運営し台風で被災した子どもたち968名に教育支援のサポートを続けて来ました。「もともと学校に通っていなかった子どもたちや学校の授業を休みがちであった子どもたちは、KnKのテントに通い友だちやスタッフとの勉強やレクリエーションをとおして通学に意欲を見出しました。被災した直後、勉強するのも、他の子やスタッフとおしゃべりするのも気の進まない様子であった子どもたちが、協調性を身につけ、自らの意志で行動するようになった姿を目の当りにしたときの喜びは忘れられません。」(元フィリピンプロジェクト・コーディネーター 原 理栄子様 談)現在は、マニラ首都圏において以前から行う「若者の家」の運営や、チルドレンセンターの活動に注力しています。



(C) 国境なき子どもたち

【支援金の使途】

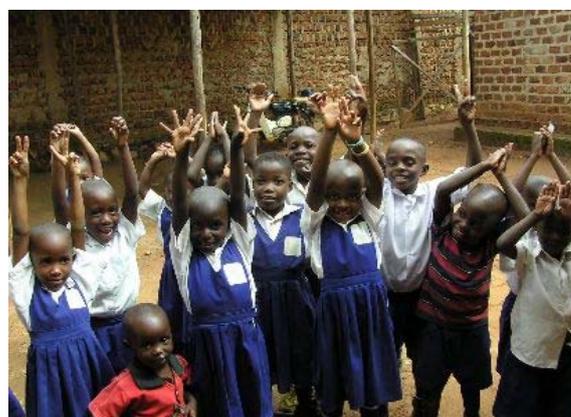
チルドレンセンターでの活動に必要な文具や材料費、および現地スタッフ人件費の一部として使わせて頂きます。

【会員へのメッセージ】

このプロジェクトは2014年12月末で終了しましたが、今年3月には日本の子どもたち(友情のレポーター)がフィリピンの被災地の子どもたちを訪問、交流し、共に寄り添い続けます。

アフリカのケニア共和国、ウガンダ共和国にてエイズ孤児に対する保護やケアサポート、エイズ予防の啓発活動に取り組んでいます。

エイズ孤児の多くは女性に育てられますが、女性の社会的地位は低く、教育の機会も少ないため、2013年1月からウガンダで養鶏事業を通じた支援を行っています。現地では牛肉よりも鶏肉のほうが高価なのだそうです。ヒナの飼育や会計など養鶏事業に必要な知識を学び、現地の人々の力で事業を継続できるようになってきました。また、治療や予防に関しても政府の支援が拡充し、教育の状況も改善されつつあるなか、新たなニーズを探索中です。



収入向上のための研修を熱心に受講する女性たち

(C) NPO法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS

【支援金の使途】

シングルマザーたちの収入向上プロジェクトである職業訓練に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

この度は、プラスのシングルマザー収入向上プロジェクトに対して温かいご支援を賜り、ありがとうございます。今回の事業は、現地の人々の力で事業継続できるようになりましたが、その成果や経験を活かし、更なる支援を行っていけるよう準備をしております。現在も一日に約2,000人のペースで増え続けるエイズ孤児達の笑顔を支えるため、引続き事業を行っていきたいと思います。今後とも、応援の程よろしくお願い致します。



1980年11月、盲導犬の育成普及を願う市民が集まり発足しました。主に関西地域の視覚障がい者の方々に盲導犬を無償貸与する公益財団法人です。京都府、滋賀県で活躍する盲導犬は、ほぼすべてが関西盲導犬協会出身です。

2014年度は、12頭の盲導犬が育成されました。盲導犬1頭あたりの育成にかかる費用は、約300万円（人件費除く）です。地方自治体等からの補助金は全体のわずか10%足らずです。残りの90%を皆様の寄付が支えています。

☆盲導犬を知る

盲導犬とは、視覚障がい者が安全に快適に歩けるよう誘導する犬のことです。使用者は、盲導犬を通して周囲のようすを判断し、頭に描いた地図と照らし合わせて、盲導犬に指示して歩いているのです。もし、交差点の手前や駅のプラットホームにいるときに使用者が困っているようすであれば『何かお手伝いしましょうか』と声をかけてみてください。盲導犬に対しては、見つめたり、話しかけたり、さわろうとしないでください。使用者が安全に歩くために『盲導犬にはかまわない』など、皆様のご協力が欠かせません。

★国内の視覚障がい者数約38万人に対して、実際に活動している盲導犬使用者の数は1031人です。（2014年3月末現在）



12月17日生まれ 父犬：ジェリー
母犬：ネオン

オス：5頭 メス：1頭

(C) 関西盲導犬協会

【支援金の使途】

盲導犬の育成費用に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

いつも大変お世話になっております。当協会ではおかげさまで、昨年度は一昨年度より2頭多い12頭の盲導犬を世に出す事ができました。これもひとえにみなさまのご支援のたまものと存じます。盲導犬を必要とされる方は全国で約3000人から4000人と推測されていますので、まだまだ盲導犬の供給は需要に追いつけていません。したがって今後もみなさまのご支援が欠かせない状況です。引き続きみなさまのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

子ども支援専門の国際組織であるセーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」の実現を目指し、1919年にイギリスで設立されました。以来、90年以上にわたり、世界で30の独立したメンバーがパートナーを組み、約120ヶ国で活動しています。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは1986年に設立され、日本国内では保護、防災、子どもにやさしい地域づくりなど、海外ではアジアやアフリカを中心に保健・栄養、教育などの分野で子どもとともに活動を実施しています。また、自然災害や紛争発生時には緊急人道支援も行っています。国連機関、各国政府、地方行政、企業・団体、個人、地域の方々など子どもを取りまく多くのステークホルダーと連携しながら、子どもたちの生活に迅速かつ永続的な改善を促し、子どもへの向き合い方に画期的な変化をもたらしています。



ミャンマー農村部におけるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの母子保健事業

(C) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

【支援金の使途】

教育・保健栄養などの分野のほか、子どもを主体とする防災への取り組みとして東南アジアで防災教育に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

引き続き今年度もみなさまのあたたかいご支援をいただきまして心より感謝申し上げます。セーブ・ザ・チルドレンは、生まれてきた子どもたちが当たり前のように健やかに生きて、育って、守られて、自分の意見を言える、聞いてもらえる世界の実現を目指して支援活動を続けています。子どもたちの現状をまず知っていただけて、何か考えるきっかけになれば幸いです。

～全てのこどもにこども時間を～

クリニックラウンは、入院生活を送るこどもの病室を定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、入院している子どもたちが子ども本来のチカラを取り戻し笑顔になる環境を創るために活動しています

長期入院中の子どもたちが笑顔になれる「こども時間」を全国の34病院（東北地域を含む）に届けていただきました。クリニックラウンが病室を訪れると、子どもはもちろん、ご家族や医療スタッフなど病院にいるすべての人が自然と笑顔になっていきます。普段とは違う意外な一面が現れ、お互いの親近感がわき、治療以外の会話が増えていくことで病棟の空気が和らぎ、治療を続ける子どものQOL向上に貢献されています。2015年度は設立10周年記念事業を予定されています。



(C) 日本クリニックラウン協会

【支援金の使途】

活動全般に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

グンゼラブアース倶楽部会員の皆さん、日本クリニックラウン協会を継続的にご支援いただきありがとうございます。
2015年当協会は、10周年を迎えます。この機会にご支援くださる皆さんへの感謝の気持ちをお伝えするとともに、さらなる飛躍の年になるように努力をしていきたいと思っております。
これからも入院中の子どもたちに寄り添い、病棟全体へ笑顔の輪を広げていけるように活動を続けていきますので、今後とも応援よろしくお願いたします。

「救える命があればどこへでも」
AMDAは相互扶助の精神に基づき、災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に緊急人道支援活動を展開。世界30カ国にある支部のネットワークを活かし、多国籍医師団を結成して実施しています。

大洋州大型サイクロン「パム」被災者に対する緊急医療支援活動



物資の分別作業をするAMDA調整員



医薬品などの支援物資を寄贈
(ツバル)



(C)AMDA

【支援金の使途】

「救える命があればどこへでも」をモットーに東北の復興支援活動や大洋州大型サイクロン「パム」被災者に対する緊急医療支援活動など広く人道支援の活動を進めています。支援金はその活動資金に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

いつも温かいご支援を頂き、ありがとうございます。「救える命があればどこへでも」と、世界のどこへでも迅速に被災者のもとに、支援に駆けつけられるのは皆様からの支援があればこそです。今後ともご支援の程、何卒宜しくお願いいたします。

スーダンにおいて医療を中心に、巡回診療事業、病院支援事業、母子保健事業、学校・教育事業、スポーツ事業等、又東北では宮城県亘理町に拠点をおき、「寺子屋」や高齢者の方々への「健康農業」などを継続しています。

スーダン政府のNGOに対する厳しい規制の中、2013年度からスーダン東部からハルツーム州へと活動地を変更し、郊外を車で回る巡回診療を続けています。ロシナンテスが去った後のシェリフハサバツラ村で、村人たちがどのように歩いていくか見守っていくのも、今後の大きな仕事のひとつです。巡回診療は8人で2週間かけて担当地区の32村を巡回します。この事業では医療サービスを提供するだけでなく、住民が安全で健康な生活を送るための健康教育を定期的に行い、衛生に関する意識を高めたり病気についての理解を深めてもらうよう取り組んでいます。東北支援活動では、寺子屋での学習支援や、高齢者への健康維持や増進、心のケアを図る事業として「健康農業 亘野イチゴ畑」で、医療と農業の双方向から健康維持へのアプローチを続けています。



川原理事長と、巡回診療で心臓に疾患が見つかった少女の手術後の笑顔



巡回診療車に荷物を満載し2週間かけて32村をまわる

(C) ロシナンテス

【支援金の使途】

スーダンでの現地医療活動・交流事業、及び東日本大震災被災地での学習支援事業と高齢者の健康農業事業に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

グンゼラブアース倶楽部の皆さまからの、継続的なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。引き続き皆さまからのあたたかいご支援を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

世界中のすべての子どもが権利を守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOです。

インドのコットン生産地とガーナの 카카오 生産地で危険な労働から子どもたちを守り、日本で児童労働の問題を伝える啓発活動、政府や企業への提言活動、ネットワークやソーシャルビジネスを通じた児童労働を解決するための活動を行っています。



インド・プロジェクト
マネージャー
成田由香子さん



学校に通えなかった子どもが基礎学力をつけるための補習学校「ブリッジスクール」

(C) ACE

【支援金の使途】

インドのコットン生産地域で、危険な労働から子どもを守り、就学を徹底させる「ピース・インド・プロジェクト」に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

継続的なご支援をいただきまして心より感謝申し上げます。これまで3つの村での活動により、地域の協力体制整備、親や住民の意識に変化がみられ304人の子どもが労働をやめ教育を受けられるようになりました。今後も継続的に子どもの就学支援を行ってまいります。



世界100ヶ国以上で活動している地球環境保護保全団体です。「自然と人との調和」を目指して、環境保全と生物多様性の保全に取り組んでいます。

支援金は主に宮城県南三陸町の養殖事業の支援に活用されます。南三陸町の漁業者の皆さんは、子どもたちにこの素晴らしい自然環境を引き継いでいくために、養殖業のエコラベルといわれるASC※の認証取得を目指しており、WWFジャパンではその取り組みを支援しています。

※ ASCとは・・・

養殖水産業には、海洋環境の悪化、餌となる天然魚の過剰利用、養殖魚の逃避による生態系のかく乱など、環境に悪影響を及ぼすケースが少なくありません。「海のエコラベル」として知られるMSC (Marine Stewardship Council: 海洋管理協議会) では、海の自然や資源を守って獲られた持続可能な水産物 (シーフード) を認証し、エコラベルをつける取り組みを行なっています。これと同様に、天然の水産物ではなく、養殖による水産物を、同様に認証する仕組みがあります。養殖版海のエコラベルの「ASC (Aquaculture Stewardship Council: 水産養殖管理協議会)」の認証制度です。問題に関心を持つたくさんの消費者が、このラベルを見て製品を選べば、消費者が持続可能な水産物の取り組みを後押しすることができます。(WWFジャパンHPより引



2014年1月21日に、東日本大震災の被災地、宮城県南三陸町にてWWF顧問で親善大使のさかなクンと戸倉小学校の子どもたちが、地元で産する魚の絵と一緒に描くイベントが開催されました

(C) WWF ジャパン

【支援金の使途】

東日本大震災後、南三陸町で牡蠣や鮭などの養殖をしている漁業者たちの支援に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

皆様からのご支援により、南三陸被災地の子どもたちと”さかなクン”とのコラボレーションが実現できました。子どもたちの笑顔がなによりみなさまへのお礼です。心より感謝申し上げます。



NPO法人 森は海の恋人は、豊かな自然環境の中で人と自然のつながりを体験的に学習できる環境教育を主軸に、森づくり、自然環境保全といった3分野の事業を展開する団体として活動しています。

これまでと変わらずもっとも重視している活動が『人づくり』です。世代を問わず多くの人々に自らの体験を通して自然に対してバランスのとれた感覚を養ってもらうためのプログラムを実施しています。小中学生対象にイカダに吊るされている牡蠣の成長の様子を見せ森から海に運ばれる養分のことなどについて説明したり、和舟の操船や釣りの体験学習を行っています。また、来日したフィリピンの教育従事者の方々に日本の環境教育の現状を知っていただき、森海理念の普及につとめています。2014年より、森は海の恋人と京都大学フィールド科学教育研究センターと日本財団によって管理・運営する舞根森里海研究所の運用を開始しました。環境教育や環境保全にかかる事業、また地域づくりの活動等を実施する場合に利用できるこの施設は、今後、森と海の繋がり、自然と人との繋がりを世界に向けて発信する基地として期待されます。



2014年4月に完成した舞根森里海研究所



筏の上での講義にも興味しんしんな小学生のみなさん

(C) 森は海の恋人

【支援金の使途】

森と海とのつながりや、自然と人間社会とのつながりを肌で感じられるように心がけた、海の体験学習の活動に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

漁師が山に木を植える「森は海の恋人植樹祭」は今年で26年目を迎えます。これまで、海を豊かにするための森づくりや、森・里・海をつながりを感じられる人材の育成に力を入れてまいりました。皆様からの温かなご支援により、これらの活動が展開できたことを心より感謝しております。また、ぜひ当地に足をお運びください。様々な「つながり」を知り、自ら体験することで新しい「自然観」が生まれることでしょう。



未来につながる持続可能なまち津山の実現を目指す！！

継続して取り組んでいる「山の学校」「水の学校」「森の学校」などの環境出前講座に加え、地球温暖化防止活動に取り組んでいます。

◆水の学校

今年は予定人数の50名を超える応募があり、多くの子どもたちが参加し川のフィールドを通して、生き物の観察、水質の調査を体験しました。

◆森の学校

山菜を探そう！ 鳥・魚・虫・植物を探そう！ きのこを探そう！ 木の実を探そう！ 日本には四季があり、森や山の四季は変化に富んでいて、森の魅力が尽きることがありません。みなさんも歩いてみませんか

◆「親子エコフェスタ」

地球温暖化防止と環境問題の意識啓発を図るため、毎年6月の環境月間に、津山市、エコネットワーク津山などが主催し環境イベント「親子エコフェスタ」を開催しています。

◆「つやま市民協働発電所」を設立

自然豊かな環境を将来世代の子供たちに継承するため、市民の力で再生可能エネルギーの普及を目指し、津山市や地元企業と協働で太陽光発電事業を行っています。



(水の学校)



(紙すき体験)



「おかやま環境フォーラム2015」が開催されました。
講演の前に岡山県地球温暖化防止活動推進員を10年務めた方の表彰があり、エコネットワーク津山から理事の渡部さんが表彰されました。

(C) エコネットワーク津山

【支援金の使途】

6月14日に開催される、地球温暖化防止啓発イベント「親子エコフェスタ2015」の運営資金の一部に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

NPO法人エコネットワーク津山は岡山県北の津山市を中心に環境啓発活動、小学校、公民館などへの環境出前講座などの活動を行っています。事務局員以外は、無給で活動しており、グンゼラブアース倶楽部様の支援金は大変助かっています。

NPOカタリバは、2001年の設立以来、子ども・若者への教育活動を行ってきたNPO法人です。キャリア学習プログラム「カタリ場」の授業では、14年間で約18万人の高校生に対して、彼らの将来へのきっかけを届け続けてきました。

「カタリ場」の授業は、主に高校生の進路意欲を高めるために行なわれる「動機付けキャリア学習プログラム」です。お陰さまで、2014年度は、221校、41,785人の生徒たちに、将来を考えるきっかけを届け、心に火を灯すことができました。授業に参加した生徒からは「今までは進路といえば、大学に入ることだと思っていたけど、本当に考えなきゃいけないのは、入学したあとの事だと今回気づいた。（高1女子）」「今からでも夢をかなえるために頑張ろうと思いました。（高1男子）」などの声をもらっています。



(C) カタリバ

【支援金の使途】

高校生の意欲を引き出すことを目指したキャリア学習プログラム「カタリ場」への寄付として使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

継続的な支援を頂き、心より御礼申し上げます。「自分が参加しても社会は変わらない68.3%」そんな子どもたちへこれからも「きっかけ」を届けてまいります。



国内の大規模災害時に迅速で効果的な支援を行うためのNPO/NGO・企業・政府・行政の連携組織です。

いつどこで起きるか分からない災害。しかし発生時には迅速で効果的な支援活動を行うために日頃から多くの団体、企業などとの連携・支援体制創りや訓練等が大切です。東日本大震災時には、支援物資の調達・配送、寄付、ボランティアの派遣など多種多様にわたる大規模支援体制をとることができました。現在も支援活動を継続しています。



「一人でも多く、少しでも早く」

被災者を救う体制創りに
ご協力ありがとうございます！

1日1回1クリックするだけで
無料で社会貢献できます

無料で簡単に活動を
支援して頂けます！ gooddo



被災した地域の医療アクセス改善を目指す「オールラウンドヘリコプター」導入について自治体・病院などとの連携を行っています。

(C)Civic Force

【支援金の使途】

国内の大規模災害時に迅速で効果的な支援を行うためのNPO/NGO・企業・政府・行政の連携・支援体制創りや訓練等に使わせて頂きます。

【会員へのメッセージ】

ご支援ありがとうございます。災害発生時に即座に質の高い支援を提供できるよう、活動を続けていきます。

JENは、紛争や自然災害により厳しい生活を余儀なくされている人々が、自らの力と地域の力を最大限に活かして自立した生活を取り戻すための必要最低限のサポートを・的確・柔軟に行っています。

現在、ヨルダンおよびイラクにおける活動に力を入れています。

2012年から始まったシリア難民への支援は長期化の様相を呈し、そのため難民自身だけでなく、受入国のヨルダン国民の生活にも影響がではじめています。支援活動開始当初より、シリア難民のみならず、受入国の不満解消も課題と捉えています。2015年からはヨルダン全域の学校調査を行い、課題の多い200校を選び、支援していきます。支援内容は「衛生教育を通じた心のケア」。従来どおり、ハード面では、トイレを増やす、ソフト面では歯のみがき方や手の洗い方の教育を行っています。難民キャンプでは、JENが雇用したヨルダン人のエンジニアチームによる補修工事を実施したり、難民自身に簡易な労働を提供するなど、人々の自尊心の回復も願いながら活動を継続しています。また、イラクでは武装組織(ISIL)からの国内避難民に対し、まず暖房器具を購入する金券配付を行いました。2015年前半には避難民キャンプ運営を開始し、購入する金券配付を行いました。2015年は年間を通して「衛生教育を通じた心のケア」を行います。



イラクの衛生教育



新学期から使用が始まったヨルダンの新教室

(C) JEN

【支援金の使途】

お預かりするご寄付は、ヨルダンやイラクで長引く避難生活を余儀なくされている人々への支援活動に、大切に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

JENへの継続的なご支援を、どうもありがとうございます。ラブアース倶楽部会員の皆様の温かいお気持ちは、確実に現地の人々に届けさせていただきます。

バングラデシュで、家事使用人として働くこどもの支援活動に取り組んでいます。シャプラニールは働くこどもがいない社会を目指しています。

家事使用人として働く少女を支援するヘルプセンターでは、1週間に5日文字の読み書きや裁縫、保健衛生の学習など子供が生活改善に必要な知識や技術を習得するための支援活動を行っています。又、家事使用人として働く少女たちについて多くの市民に伝える啓発キャンペーンでは、地域の人々、働く少女たち、学生たちなどが参加し、児童労働の問題に気付いた人々が社会を変える力になりつつあります。



センターで勉強している子どもたち



家事使用人として働く子どもたち

(C) シャプラニール

【支援金の使途】

バングラデシュやネパールといった南アジアにて、働く子どもたちの支援活動を行っています。バングラデシュでは家事使用人として働く少女たちが通う支援センターを運営し、基本的な読み書きや生活に必要な知識の習得を支援しています。いただいた支援金は支援センターの運営費用や現地での啓発活動などの資金に使用させていただきます。

【会員へのメッセージ】

いつもシャプラニールの活動にご理解・ご協力いただきましてまことにありがとうございます。シャプラニールは南アジアで貧困に立ち向かう人々へ支援を続けて今年で43周年を迎えました。ここまで長い間活動を続けてこれたのも、みなさまの温かいご支援のおかげです。これからも「すべての人々が豊かに共生できる地球社会」を目指した活動を続けていきます。

■認定NPO法人ACE(エース)様との協働活動

●インドの子どもたちに子ども肌着を支援

児童労働をなくすために、ACEが活動されているインドの子どもたちに肌着200枚を支援しました。
衛生教育のひとつとして活用いただき、子どもたちにも喜んでいただきました。



●「そのこ」キャンペーン

児童労働がなくなる1つの原因は、その現状を「知らない」人が多いからです。まずは知ること伝えることが大切です。
今回詩人である 谷川俊太郎さんの詩「そのこ」を詩を読んで「そのこ」の未来ためになにができるか考え、児童労働のない未来を想い身近な人へ詩「そのこ」を伝えるキャンペーンで募金活動を実施しました。
東京・大阪で集まった30,750円を寄付いたしました。



●しあわせへのチョコレートプロジェクト2014

チョコレートを食べる人、作る人みんなが一緒にしあわせになれるようカカオ生産地の子どもたちを児童労働から守る支援活動。
グンゼグループ従業員で、合計3,638個のチョコレートを購入しました。



■ 特定非営利活動法人 クリニクラウン協会様 ボランティア参加

● RED NOSE DAY 8月7日

12時から1分間、あかいはなをつけて笑顔のムーブメントを起こそうというイベントがあり、チャリティイベントにCSR推進室から4名ボランティアとして参加しました。

【ボランティアの内容】

チャリティガイドでのイベント告知・場内案内・チラシの配布、募金のお願い。

このイベントでの寄付金は、入院中の子どもたちが笑顔になれる時間を届けるクリニクラウンの活動に使用されます。



阪急うめだ本9階 祝祭広場

スタッフ・来場者 約700名参加店

■ 認定特定非営利活動法人 国境なき子どもたち様 ボランティア参加

●ブース展 2015年2月～19日 阪急うめだ本店9階 祝祭広場

H2Oサンタ NPOフェスティバルイベントが開催され 『国境なき子どもたち (KnK)』様のブースが出展されました。
ハウスカジュアルセンター 3名・インナー事業部本部 1名・CSR推進室のメンバーがボランティアとして参加しました。

【ボランティアの内容】

KnKの東北活動を紹介するパネルやカンボジアのフェアトレード製品を紹介するブースで、来場者へのパンフレット配布、募金の呼びかけ、物販対応。

(H2Oサンタとは)

阪急・阪神百貨店をはじめとする。

H2Oリテイリンググループが 取組む社会貢献活動です。



【左 knk 広報 松浦さん】

■ 講演

● (東京・大阪) CSR推進リーダー会議

特定非営利活動法人エイズ孤児支援NGO・PLAS様から 増え続けるアフリカのエイズ孤児支援のため、地域住民への教育開発活動についてお話いただきました。



【エイズ孤児支援 NGO・PLAS】

公益財団法人 関西盲導犬協会様からは、盲導犬の必要性についてお話いただきデモンストレーションを実施していただきました。



【関西盲導犬協会】

■もったいない活動

身近な社会貢献活動として、ブルタブや古本等を集めて、NPO等への寄付金として交換する活動を進めています。

種別	累計
エコキャップ	2,422,289個
ブルタブ・アルミ缶回収	1,721kg
使用済み切手	178,358枚
書き損じはがき	1,651枚
古本	5,290冊(75,626円相当)
使用済みカード	428枚

注 2007年度～2014年度累計

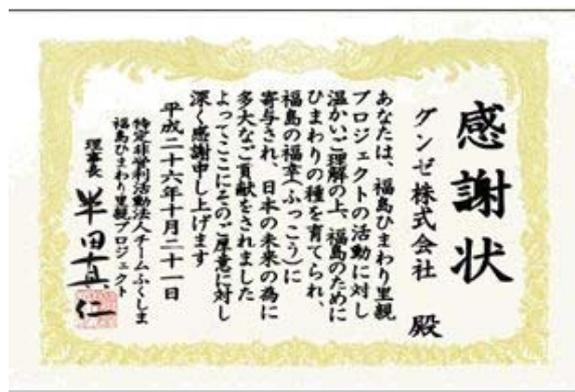
種別	寄付団体
エコキャップ	NPO法人 エコキャップ推進協会
ブルタブ・アルミ缶回収	みんなであつめる福祉に広がる会
使用済み切手	認定NPO 緑の地球ネットワーク
書き損じはがき	
古本	NPO法人 シャプラニール
使用済みカード	NPO法人 ジェン(JEN)

※エコキャップの寄付先は、2015年度よりNPO Reライフスタイルに変更しております。

■福島ひまわり里親プロジェクト

「福島県に『震災復興のシンボル』としてひまわりを植えよう！」という活動です。このプロジェクトから購入したひまわりの種を里親として育て、種を採取して福島へ送り返します。福島と全国との『絆』作り&風化対策+雇用対策となります。

18事業所が参加しています。



綾部エンプラ



九州グンゼ



東北グンゼ



梁瀬工場

各事業所から届いた種は無事送付完了
ひまわりの種 2014年 収穫は9.24kgでした。

収支計算書

(2014年4月1日から2015年3月31日)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	2,131,945	支援先への寄付	1,725,314
当期収入計			
活動資金 (A会員)	1,341,100	寄付金振込手数料	3,040
// (B会員・賛助会員)	47,000	残高証明証手数料	1,065
預け金利息	326		
当期収入計	1,388,426	次期繰越金	1,790,952
収入計	3,520,371	支出計	1,729,419

貸借対照表

(2015年3月31日)

資産の部		負債・剰余金の部	
科目	金額	科目	金額
預け金	1,790,952		
		次期繰越金	1,790,952
資産計	1,790,952	負債・剰余金計	1,790,952

2014年度
グンゼラブアース倶楽部会計監査報告

グンゼラブアース倶楽部会則25条に基づき
2014年度グンゼラブアース倶楽部の決算に
あたり、会計監査を実施し、関係書類を監査し
た結果、決算書のとおり、その処理が適正かつ
正確であったことをここに報告いたします。

2015年5月15日
監査委員

氏名 藤間 博 

氏名 高山 新 

2014年度

グンゼラブアース倶楽部監査委員
藤間 博、高山新

